

■普及所から④■

スイートコーンの ●●●作り方

スイートコーンの原産は南米山ろく地帯で、高温多日照を好み、適度な土壌水分が必要です。

品種は、早生から晩生までたくさんありますが、これからの栽培には食味が良いハニーバンダム36

が良いでしょう。

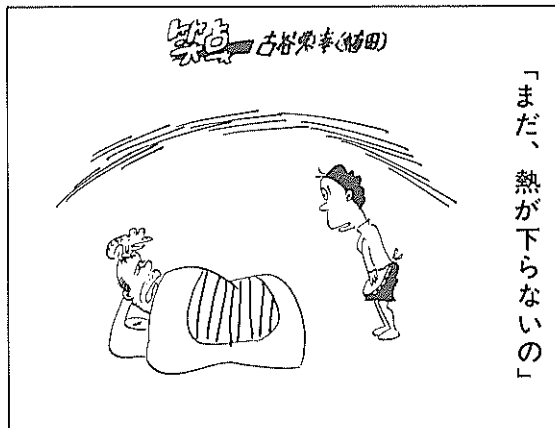
三月中旬以降は、露地でマルチ栽培できますので、畑には早めに堆肥を十分に入れ(二〇糞相当たり一〇〜一五^{kg})、石灰とともにすき込み土づくりをしておきます。元肥は、種まきの十日前までに化成肥料で、一〇糞相当り成分で三要素とも三〇〇^gを目安とします。畦幅は、スイートコーン専用マルチを使用する場合、一四〇^{cm}二条植えとなります。マルチを利用しない場合には、条間四〇^{cm}で株間二七〜三〇^{cm}の二条植えとなるように畦立てします。この場合には、敷ワラ等をして乾燥しないようにする必要があります。種まきは、一穴二粒まきとし一畝ほど覆土します。土には十分な湿りがない場合には水をやります。本葉三〜四枚になったころ、生育

の悪い方を株元から切り取り一本にします。隣りが欠株であれば二本残してもかまいません。本葉が五、六枚のころ、無マルチでは中耕、追肥をかねて追肥をやります。株元のわき芽は摘除しないで放任したほうが倒れにくいし、より大きな穂が収穫できます。種まき後四十〜五十日もすれば、一株から雌穂が何本も出てきますが、最上部の雌穂一本だけを残り、他は早めに摘除し、ヤングコーンとして、野菜炒めやサラダに利用してください。

収穫は雌穂の絹糸が出て三週間くらいですが、そのころは毛が茶色になってるので、少し皮をむいて熟度を確かめてから収穫します。収穫後はなるべく早く食べるか、硬めにゆでて冷凍しておきましょう。また茎葉は、畑にすき込むか推積しておき有効に利用します。

最後に害虫防除ですが、生育初期からアワノメイガが、収穫が近づくとアブラムシの発生が多くなります。アワノメイガには、雌穂の出始めにカルホス乳剤一〇〇倍液か、バダシ水溶液七〇〇倍を一〜二回散布します。アブラムシにはディプロレックス粉剤を一〇^g当たり四^gか、オルラン水和剤一〇〇〇倍を散布します。

「まだ、熱が下らないの」
〔南国農業改良普及所〕



南国歌壇

せせらぎの岸辺のほとり露のとう
一番乗りと笑みて顔出す

中谷 西川雪於

リハビりに耐えて生き抜く父在り
てペダルこぎ往く千屋崎の坂
篠原 小松延江
交配し成りたる柑と「晚白柚」
ひとつ賜へりその香すがしも
西野田 吉川定子

梅林に陽ざしみなぎり満開の

花の香はこぶ谷のそよ風

西島 高橋佐代

緒に就きし隠道工事か発破音は
札所の春の山に鳴りぬる
十市 山本憲彰
地図ひろげ歴史ひもとく冬の夜の
机上の旅は世界駆けゆく
篠原 山本 茂

南国柳壇

カラオケに中年だけがシビレテル

前浜 大原正明

マネキンも風邪引きそうな春の服
立田 北村幸江
花見酒きいてへそくりつい出して
十市 大家寿恵子
あきらめの日々に見つけた小さき
幸 古市 島田 稔子

南国俳壇

降る雪に耳を預けて眠りけり

水仙をふつと抜けたる袖のひと

北風はげし満席積木の汽車ポツポ

春宵に昏れ残りたる仁王の眼

もの芽の雨にあひたる勢かな

金堂の軒に通へる親雀

椿刺く生活もある誕生日

闇深きゆえに香をもつおぼろかな

午前五時冬満月が呼ぶような

北岡高子(岩村句会)

吉田常光()

和田ひでみ()

竹内隆造(梵鐘句会)

林 広裕()

高橋 蛙()

岡田寿子(花柳俳句会)

福井英子()

岡田昌子()